

令和7年版／令和6年度決算
日本ワイド少額短期保険の現状
2025



日本ワイド少額短期保険株式会社
Japan wide small amount and short term insurance co;Ltd.,

目 次

会社概要

(1) 会社概要	2
(2) 会社組織	3

第1 主要な業務の内容

第2 主要な業務に関する事項

1 現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果等	4
(2) 主要な業務の状況を示す指標	5
(3) 保険契約に関する指標等	7
(4) 計算書類に関する指標	10
(5) 使用人の状況	13
(6) 主要な借入先の状況	13
(7) 資金調達の状況	13
(8) 重要な親会社及び子会社等の状況	13

2 会社役員に関する事項

(1) 会社役員の状況	14
-------------	----

3 株式に関する事項

(1) 株式数	14
(2) 当年度末株主数	14
(3) 大株主	14

第3 運営に関する事項

1 リスク管理の体制について	15
2 法令遵守の体制について	17
3 コンプライアンス体制について	18
4 再保険について	18
5 指定紛争解決機関について	19

第4 財産の状況に関する事項

1 貸借対照表	20
2 損益計算書	21
3 キャッシュ・フロー計算書	22
4 株主資本等変動計算書	23
5 保険金等の支払能力の充実の状況	24
6 時価情報等	26

1. 会社概要

会 社 名

日本ワイド少額短期保険株式会社

本 店 所 在 地

福岡県筑紫野市針摺中央2丁目16-8 駅前ビルIV 3階
電話：092-983-8014（代表）

設 立 年 月 日

平成26年6月6日

登 録 日

平成27年3月4日

登 録 番 号

福岡財務支局長（少額短期保険）第5号

営 業 開 始 日

平成27年3月20日

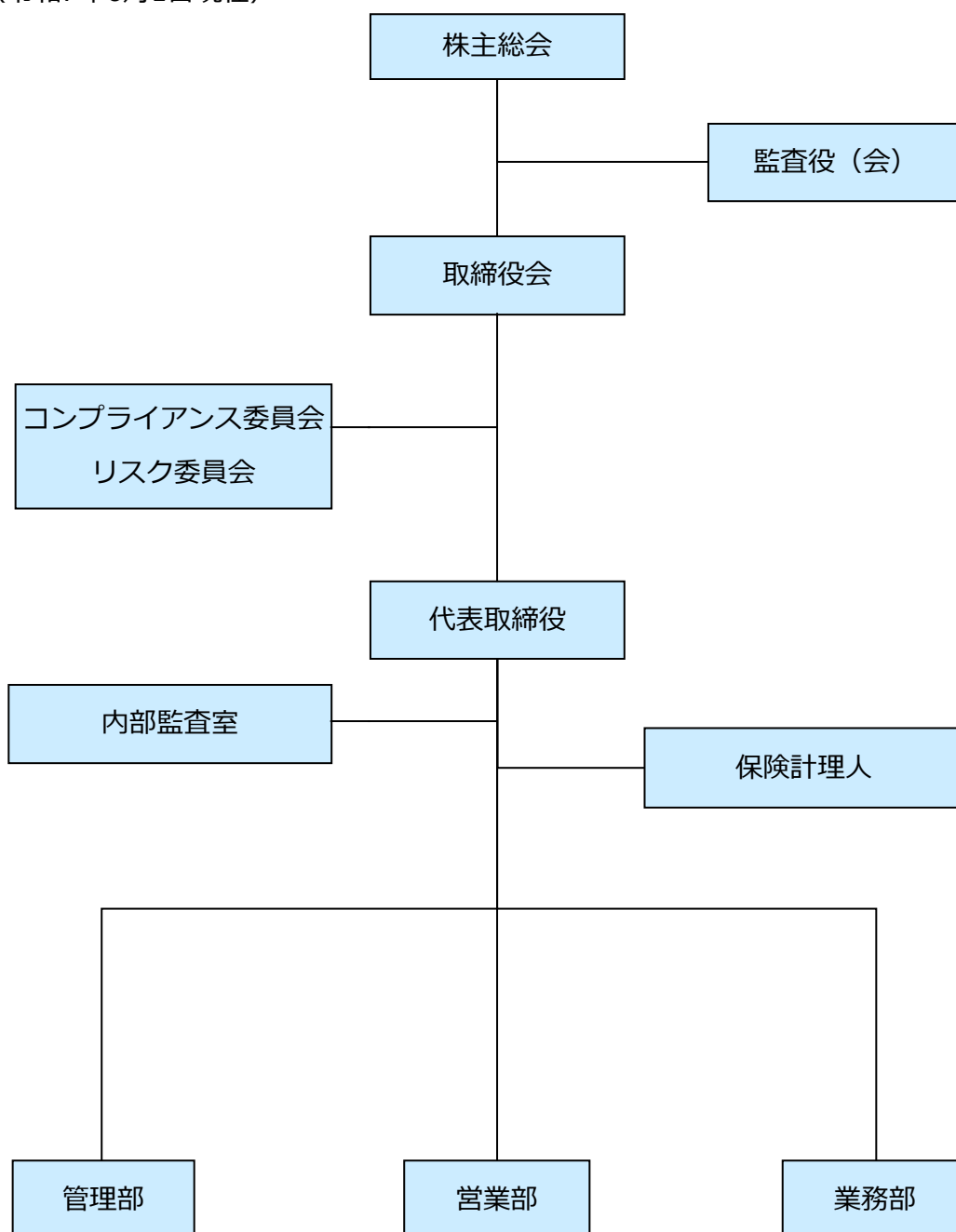
資 本 金

13,250万円

2. 会社組織

組織図

組織・経営体制
(令和7年6月1日現在)



第1 主要業務に関する内容

当社は少額短期保険業者として次の商品を取り扱っています。

- ワイドRoom保険
- テナント総合保険

第2 主要な業務に関する事項

1 現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果等

当社は平成27年4月1日より賃貸住宅への入居者に対して、ワイドルーム保険、テナント総合保険の販売を開始致しました。グループ会社で主力代理店である駅前不動産グループを中心として、今年度は8,173件の新規契約を獲得することができました。また、今期末の保有契約数は、36,205件（家財、賠償は合わせて1契約でカウント）となっております。

今後は主力代理店を中心として新規契約数の増加に努め、グループ外の既存代理店への手厚いフォロー体制を整えるとともに、新規代理店獲得に向け、商品の販売強化を行う予定です。

また、内部統制、リスク管理、個人情報保護などの体制を整備・強化するとともに、管理体制の充実に努めて参ります。

< 代表的な経営指標等 >

(単位：千円)

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
収入保険料	320,065	346,641	371,262
正味収入保険料	30,676	33,232	35,599
経常利益（又は経常損失）	△5,531	6,616	26,397
当期純利益（又は当期純損失）	△15,462	5,035	23,606
資本金	132,500	132,500	132,500
発行済株式の総数	3,900株	3,900株	3,900株
純資産	66,980	72,015	95,621
総資産	254,663	259,992	273,258
責任準備金	36,763	37,970	26,876
有価証券	0	0	0
ソルベンシーマージン比率	1,405.6%	1,892.3%	2,300.1%
配当性向	0	0	0
従業員数	7名	8名	8名

(2) 主要な業務の状況を示す指標

① 正味収入保険料

(単位：千円)

種目 \ 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
火災保険	19,001	20,680
賠償責任保険	14,230	14,918
合 計	33,232	35,599

※正味収入保険料とは、元受正味保険料から支払再保険料を控除したものです。

② 元受正味保険料

(単位：千円)

種目 \ 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
火災保険	190,017	206,805
賠償責任保険	142,307	149,188
合 計	332,325	355,994

※元受正味保険料とは、保険料から解約返戻金およびその他返戻金を控除したものです。

③ 支払再保険料

(単位：千円)

種目 \ 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
火災保険	171,015	186,125
賠償責任保険	128,076	134,270
合 計	299,092	320,395

※支払再保険料とは、再保険料から再保険返戻金およびその他再保険収入を控除したものです。

④保険引受利益

(単位：千円)

種目 \ 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
火災保険	15,033	15,027
賠償責任保険	10,155	11,137
合 計	25,188	26,165

※保険引受利益とは、保険料等収入、支払備金戻入額および責任準備金戻入額から保険金等支払金、責任準備金等繰入額及び事業費を控除したものです。

⑤正味支払保険金

(単位：千円)

種目 \ 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
火災保険	2,581	1,031
賠償責任保険	1,594	1,200
合 計	4,175	2,232

※正味支払保険金とは、元受正味保険金から回収再保険金を控除したものです。

⑥元受正味保険金

(単位：千円)

種目 \ 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
火災保険	17,765	1,536
賠償責任保険	9,674	5,521
合 計	27,439	7,058

※元受正味保険金とは、支払保険金から保険金戻入を控除したものです。

⑦回収再保険金

(単位：千円)

種目 \ 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
火災保険	23,231	9,286
賠償責任保険	14,348	10,806
合 計	37,580	20,093

(3) 保険契約に関する指標等

①契約者配当金の額

該当ありません。

②正味損害率、正味事業費率及び正味合算率

(単位：%)

区分 \ 年度	令和 5 年度			令和 6 年度		
区分	正味損害率	正味事業費率	正味合算率	正味損害率	正味事業費率	正味合算率
火災保険	13.6	62.2	75.8	5.0	30.2	35.2
賠償責任保険	11.2	62.8	74.0	8.0	30.5	38.5
合 計	12.6	62.5	75.1	6.3	30.3	36.6

※正味損害率＝正味支払保険金÷正味収入保険料、正味事業費率＝正味事業費÷正味収入保険料、

正味合算率＝正味損害率＋正味事業費率

③出再控除前の元受損害率、元受事業費率および元受合算率

(単位：％)

区分 \ 年度	令和 5 年度			令和 6 年度		
区分	元受損害率	元受事業費率	元受合算率	元受損害率	元受事業費率	元受合算率
火災保険	13.6	72.4	86.0	5.0	72.1	77.1
賠償責任保険	11.2	72.4	83.6	8.0	72.1	80.1
合 計	12.6	72.4	85.0	6.3	72.1	78.4

※元受損害率＝当期発生保険金÷当期既経過保険料、元受事業費率＝事業費÷当期既経過保険料、

元受合算率＝元受損害率＋元受事業費率

④出再を行った再保険会社の数と出再保険料の上位 5 社の割合

令和 5 年度		令和 6 年度	
出再先保険会社の数	出再保険料のうち上位 5 社の出再保険料の割合	出再先保険会社の数	出再保険料のうち上位 5 社の出再保険料の割合
1 社	100%	1 社	100%

⑤支払再保険料の格付けごとの割合

令和 5 年度		令和 6 年度	
格付け区分	出再保険料における割合	格付け区分	出再保険料における割合
A	100%	AA-	100%
合計	100%	合計	100%

⑥再保険収支

(単位：千円)

	令和5年度	令和6年度
再保険収入	270,298	279,632
回収再保険金	37,580	20,093
再保険手数料	219,833	245,799
再保険返戻金	12,884	13,740
その他再保険収入		
再保険料	311,977	334,135

⑦再保険貸借

(単位：千円)

	令和5年度	令和6年度
再保険貸	79,469	73,336
未回収再保険金	1,576	2,647
未収再保険手数料	74,733	40,375
未収再保険返戻金	3,159	4,132
未収その他再保険収入		
再保険借	104,837	91,810
未払再保険料	104,837	91,810

(4) 計算書類に関する指標

① 有価証券

(単位：千円)

区 分	5年度期首残高	5年度期末残高	5年度増減(△)額	6年度期首残高	6年度期末残高	6年度増減(△)額
国 債	-	-	-	-	-	-
地 方 債	-	-	-	-	-	-
社 債	-	-	-	-	-	-
公 社 公 団 債	-	-	-	-	-	-
金 融 債	-	-	-	-	-	-
事 業 債	-	-	-	-	-	-
株 式	-	-	-	-	-	-
外 国 証 券	-	-	-	-	-	-
株 式	-	-	-	-	-	-
そ の 他	-	-	-	-	-	-
そ の 他 の 証 券	-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-	-

② 保険契約準備金

(単位：千円)

区 分	5年度期首残高	5年度期末残高	5年度増減(△)額	6年度期首残高	6年度期末残高	6年度増減(△)額
支 払 備 金	1,502	2,355	853	2,355	4,019	1,664
責 任 準 備 金	36,763	37,970	1,207	37,970	32,709	△5,261
計	38,266	40,325	2,059	40,325	36,729	△ 3,596

③ 引当金

(単位：千円)

区 分	5年度期首 残 高	5年度期末 残 高	5年度増減 (△) 額	6年度期首 残 高	6年度期末 残 高	6年度増減 (△) 額	計上の理由及 算 定 方 法
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-

④ 有形固定資産及び無形固定資産

(単位：千円)

資産の種類	5年度期首 残 高	5年度 増加額	5年度 減少額	5年度 償却額	5年度期末 残 高	5年度減価 償却累計額	5年度償却 累計率
有形固定資産							
土地							
建物							
リース資産						4,962	100%
建設仮勘定							
その他の有形固定資産	543	0	120	95	328	2,504	96.2%
有形固定資産 計	543	0	120	95	328	7,466	98.7%
無形固定資産							
ソフトウェア	663	0	0	178	485	1,499	88.1%
のれん							
リース資産							
その他の無形固定資産							
無形固定資産 計	663	0	0	178	485	1,499	88.1%
計	1,206	0	120	273	813	8,965	97.0%

(単位：千円)

資産の種類	6年度期首 残 高	6年度 増加額	6年度 減少額	6年度 償却額	6年度期末 残 高	6年度減価 償却累計額	6年度償却 累計率
有形固定資産							
土地							
建物							
リース資産						4,962	100%
建設仮勘定							
その他の有形固定資産	328	184	0	183	329	2,438	92.5%
有形固定資産 計	328	184	0	183	329	7,400	97.5%
無形固定資産							
ソフトウェア	485	0	0	178	307	1,677	89.4%
のれん							
リース資産							
その他の無形固定資産							
無形固定資産 計	485	0	0	178	307	1,677	89.4%
計	813	184	0	361	636	9,077	96.0%

⑤ 事業費の明細

(単位：千円)

区 分	5年度金額	6年度金額
営業費	129,874	147,822
代理店手数料	129,251	147,395
営業職員経費	-	-
広告宣伝費	-	-
その他営業費	622	427
一般管理費	88,848	104,912
人件費	20,594	23,908
物件費	68,254	81,003
税金	667	776
減価償却費	393	361
賞与引当金繰入額	1,858	2,724
事業費計	221,642	256,596

⑥ 供託金

(単位：千円)

区 分	5年度期首残高	5年度期末残高	5年度増減(△)額	6年度期首残高	6年度期末残高	6年度増減(△)額
現金	11,000	11,000	0	11,000	11,000	0
計	11,000	11,000	0	11,000	11,000	0

(5) 使用人の状況

区 分	令和5年度	令和6年度	令和6年度増減 (△)
内務職員	5 名	5 名	0名
営業職員	2 名	2 名	0名

(6) 主要な借入先の状況

当該事業年度の借入はありません。

(7) 資金調達の状況

当該事業年度の資金調達はありません。

(8) 重要な親会社及び子会社等の状況

イ 親会社の状況

会社名	所 在 地	主要な事業 内 容	設 立 年 月 日	資 本 金	親会社が有する 当社の議決権 比率	その他
株式会社 リログループ	東京都新宿区新 宿4丁目3-23	借上社宅 賃貸管理 福利厚生	昭和42年3月15日	2,667百万円	100 %	-

2 会社役員に関する事項

(1) 会社役員の状況

(令和7年6月1日現在)

氏 名	地位及び担当	兼職その他の状況
川野 浩史	代表取締役	
高井 健蔵	(社外取締役)	株式会社リロパートナーズ（グループ会社） 代表取締役
北村 真二	(社外取締役)	株式会社リログループ（出資会社） 執行役員
戸橋 謙造	(社外取締役)	株式会社リログループ（出資会社） 執行役員
林田 保明	(社外取締役)	株式会社駅前不動産（グループ会社） 代表取締役
宇野 嘉宣	(社外取締役)	駅前管理システム株式会社（グループ会社） 取締役
足立 正則	監査役	株式会社駅前不動産ホールディングス（グループ会社） 取締役

3 株式に関する事項

(1) 株式数

発行可能株式総数	10 千株
発行済株式の総数	3.9 千株

(2) 当年度末株主数

1 名

(3) 大株主

株主の氏名又は名称	当社への出資状況	
	持株数等	持株比率
株式会社リログループ	3.9 千株	100 %
-	-	-
-	-	-

第3 運営に関する事項

当社のリスク管理態勢について

保険会社を取り巻く経営環境は大きく変化し、各種のリスクはますます多様化・複雑化しています。

こうした環境のもと、当社では、経営上のリスクに的確に対応し、健全かつ適切な業務の運営を確保し向上するためのリスク管理態勢を構築しています。

<基本方針>

当社は様々なリスクを的確に把握し、適切に業務を遂行することによって、少額短期保険会社としての役割を果たすとともに、経営の健全性を確保致します。又、リスク管理に係る組織、体制、リスクの定義を明確化しています。

<危機管理方針>

当社は、基本方針に基づき、リスク委員会が、当社を取り巻くあらゆるリスクについて、実質的な論議を行い、適宜取締役会に報告するとともに、必要な対策を講じています。又、リスク管理に係る基本方針や諸規程の整備・見直しを通して、社内のリスク管理態勢の整備を行っています。

<個別リスクの対応>

当社に影響をおよぼす主要なリスクは以下のものであり、個別にリスク管理に取り組んでいます。

1. 保険引受リスク

保険引受にあたっては、「加入引受規程」に基づいて引受が行われますが、経済情勢や保険事故の発生率等が保険料の設定時の予測に反して変動することにより損失が発生するリスクをいいます。

2. 保険募集リスク

- ①適正な保険募集が行われていないことによるリスク。
- ②個人情報漏えいのリスク。
- ③保険募集文書等の表示誤り等のリスク。
- ④保険募集に携わる代理店・募集人の教育・指導・管理に係るリスク。
- ⑤代理店等の無登録・無届による募集リスク。

4. 事務リスク

当社役職員ないし業務委託先の役職員が正確な事務を怠る、あるいは事故・不正などを起こすことにより損失が発生するリスクをいいます。

5. システムリスク

代理店システムおよび情報システムの誤作動、システムダウン、あるいは当社役職員および委託先役職員等の不正や事故などに伴い損失が発生するリスクをいいます。特に、セキュリティ管理態勢の不備等によりサイバー攻撃を受けたり、システムへの不正アクセスが原因で情報漏えいが発生し、損害を被るリスクをサイバーテロリスクいいます。

6. 風評・評判リスク

当社および当社と密接なかかわりを持つ会社および関係者に対して、否定的な評価や評判が広まることによって、当社の信用やブランド価値が低下し、損失を被るリスクをいいます。

法令遵守の体制について

弊社では、このコンプライアンス体制維持のため「コンプライアンス基本規程」および「コンプライアンス委員会規程」を策定し、日頃よりこれらの規程の遵守状況をチェックし、適宜これらの諸規程の見直しを行っています。また、「コンプライアンス基本規程」に以下の項目を定めています。

＜コンプライアンスに関する基本的方針＞

企業は、社会の利益に合致して、社会の発展に貢献することをもって、その存在意義が認められるものであり、良質な商品、サービスを提供すると同時に社会のルールを遵守することは企業の社会的責任として必須条件です。当社は、高い倫理観のもと、保険業法を始めとする法令、その他の社会規範および社内規程を遵守し、良識に基づいた公正かつ誠実な経営を実践することを会社の基本方針として、コンプライアンス（法令等遵守）を経営の最重要課題と位置づけてコンプライアンス推進に向けた取組みを行います。

基本原則（行動規範）

1. 私たちは、保険業法等の法令・社内規程を遵守し、お客様にご満足頂ける適正な業務を行います。
2. 私たちは、特定のお客様に対して保険約款等に定めのない不公正な取り扱いや不当な利便の提供を行いません。
3. 私たちは、お客様のプライバシー保護の重要性を十分認識し、お客様データその他社内情報の取り扱いについて、社内規程に則り、適切かつ厳正に管理します。
4. 私たちは、反社会的勢力からの諸要求に対しては、公私を問わず断固として拒絶します。
5. 私たちは、個人の人権・人格を尊重し、あらゆる差別、セクシャル・ハラスメント等につながる行為を行いません。

6. 私たちは、就業規則・労働協約等を遵守し、健全・効率的・快適な職場環境を確保します。
7. 私たちは、役職員間で金銭の貸借を行いません。
8. 私たちは、社会通念上相当と認められる範囲を超える贈答等を行いません。
9. 私たちは、公私を問わず環境に悪影響をおよぼさないよう十分に配慮します。
10. 私たちは、公共性の高い事業に携わっていることを自覚し、社会生活においても自らの倫理観を高め、社会的良識をもって行動します。

コンプライアンス体制について

当社は、コンプライアンスについて保険会社として役員・全従業員が一体となり、これを推進して行くため「コンプライアンス委員会」を設置する等推進体制の整備を行っています。「コンプライアンス委員会」は、コンプライアンス関連の規程の立案・周知徹底の推進・改善策策定・取り組み状況のモニタリング等、コンプライアンスに関する全般的統制・管理を行っています。「コンプライアンス委員会」の事務局を管理部に置き、代表取締役を委員長、非常勤役員、本社各部門長が委員となり、上記の職務を遂行しています。

再保険について

当社は、巨事故などで予測を越える保険金の請求があってもきちんと対応できるよう、別の保険会社に加入して支払いリスクを分散・軽減させる仕組みを持っています。

その仕組みを「再保険」といい、当社は、2024年度はNewline Asia Services Pte.Ltd.と再保険契約を締結し、万が一巨額な保険金が必要となったときに、責任準備金が足りなくなるのをさけるため、当社が引き受けた保険契約のすべてを引き受けてもらっています。

金融 ADR 制度（指定紛争解決機関）について

金融 ADR 制度とは、お客様と金融機関との間で起こったトラブルを、裁判ではなく、中立・公正な第三者（指定紛争解決機関、以下「ADR 機関」といいます）に関わってもらいながら、柔軟な解決を図るものです。当社は、ADR 機関である一般社団法人 日本少額短期保険協会との間で、少額短期保険業務に関する苦情処理手続および紛争解決手続等の実施のための手続実施基本契約を締結しています。当社との間で問題が解決できない場合は、一般社団法人日本少額短期保険協会が運営する「少額短期ほけん相談室」をご利用いただくことができます。

一般社団法人 日本少額短期保険協会「少額短期ほけん相談室」

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-12-8 HF 八丁堀ビルディング 2 階

TEL : 0120-82-1144 FAX : 03-3297-0755

受付時間 : 9 : 00 ~ 12 : 00、 13 : 00 ~ 17 : 00

受付日 : 月曜日から金曜日（祝日ならびに年末年始休業期間を除く）

<http://www.shougakutanki.jp/general/consumer/consult.html>

第4 財産の状況に関する事項

1 貸借対照表

(単位：千円)

科 目	令和5年度	令和6年度	科 目	令和5年度	令和6年度
(資産の部)			(負債の部)		
現金及び預貯金	96,902	113,537	保険契約準備金	40,325	36,729
現金	0	0	支払備金	2,355	4,019
預貯金	96,902	113,537	責任準備金	37,970	32,709
有価証券	0	0	代理店借	23,833	25,814
国債	0	0	再保険借	104,837	91,810
地方債	0	0	短期社債	0	0
その他の証券	0	0	社債	0	0
棚卸資産	0	0	新株予約権付社債	0	0
有形固定資産	328	329	その他負債	17,121	20,122
土地	0	0	借入金	0	0
建物	0	0	未払法人税等	1,568	2,300
リース資産	0	0	未払金	13,231	14,791
建設仮勘定	0	0	未払費用	278	474
その他の有形固定資産	328	329	前受収益	0	0
無形固定資産	485	307	預り金	257	277
ソフトウェア	485	307	リース債務	0	0
のれん	0	0	資産除去債務	0	0
リース資産	0	0	仮受金	0	0
その他の無形固定資産	0	0	その他の負債	1,784	2,279
代理店貸	2,881	1,809	退職給付引当金	0	0
再保険貸	79,469	73,336	役員退職慰労引当金	0	0
その他資産	68,924	72,938	賞与引当金	1,858	3,160
未収金	1,857	20	価格変動準備金	0	0
未収保険料	63,686	69,054	繰延税金負債	0	0
前払費用	3,018	3,236	負債の部 合計	187,976	177,636
未収収益	0	0	(純資産の部)		
仮払金	0	0	資本金	132,500	132,500
保険業法第113条繰延資産	0	0	新株式申込証拠金	0	0
代理店業務貸	0	0	資本剰余金	62,500	62,500
その他の資産	362	626	資本準備金	62,500	62,500
前払年金費用	0	0	その他資本剰余金	0	0
繰延税金資産	0	0	利益剰余金	△ 122,984	△ 99,378
供託金	11,000	11,000	利益準備金	0	0
			その他利益剰余金	△ 122,984	△ 99,378
			繰越利益剰余金	△ 122,984	△ 99,378
			自己株式	0	0
			自己株式申込証拠金	0	0
			株主資本合計	72,015	95,621
			その他有価証券評価差額金	0	0
			繰延ヘッジ損益	0	0
			土地再評価差額金	0	0
			評価・換算差額等合計	0	0
			新株予約権	0	0
			純資産の部 合計	72,015	95,621
資産の部合計	259,992	273,258	負債及び純資産の部合計	259,992	273,258

2 損益計算書

(単位：千円)

科 目	令和5年度	令和6年度
経常収益	635,630	674,698
保険料等収入	616,940	650,894
保険料	346,641	371,262
再保険収入	270,298	279,632
回収再保険金	37,580	20,093
再保険手数料	219,833	245,799
再保険返戻金	12,884	13,740
その他再保険収入	0	0
責任準備金戻入額	0	5,260
資産運用収益	1	70
利息及び配当金等収入	1	70
その他運用収益	0	0
その他経常収益	18,689	18,472
経常費用	629,014	648,300
保険金等支払金	368,050	371,728
保険金等	41,756	22,325
解約返戻金等	12,370	12,942
その他返戻金	1,946	2,325
契約者配当金	0	0
再保険料	311,977	334,135
責任準備金等繰入額	2,058	1,664
支払備金繰入額	852	1,664
責任準備金繰入額	1,206	0
資産運用費用	0	0
事業費	221,642	256,596
営業費及び一般管理費	218,723	252,734
税金	667	776
減価償却費	393	361
賞与引当金繰入額	1,858	2,724
その他経常費用	37,263	18,311
保険業法第113条繰延資産償却費	18,946	0
その他の経常費用	18,316	18,311
保険業法第113条繰延額	0	0
経常利益（又は経常損失）	6,616	26,397
特別利益	0	0
負ののれん発生益	0	0
特別損失	0	0
不動産等圧縮損	0	0
その他特別損失	0	0
契約者配当準備金繰入額	0	0
税引前当期純利益（又は税引前当期純損失）	6,616	26,397
法人税及び住民税	1,580	2,791
法人税等調整額	0	0
法人税等合計	1,580	2,791
当期純利益（又は当期純損失）	5,035	23,606

3 キャッシュ・フロー計算書

(直接法により表示する場合)

(単位：千円)

科 目	令和5年度	令和6年度
営業活動によるキャッシュ・フロー		
保険料の収入	346,641	371,262
再保険による収入	270,298	279,632
保険金等支払による支出	△ 41,756	△ 22,325
解約返戻金等支払による支出	△ 12,370	△ 12,942
その他返戻金等支払による支出	△ 1,946	△ 2,325
再保険料支払による支出	△ 311,977	△ 334,135
事業費の支出	△ 221,642	△ 256,596
その他	△ 45,072	△ 21,687
小 計	△ 17,824	884
利息及び配当金等の受取額	0	70
利息の支払額	△ 113	0
契約者配当金の支払額	0	0
その他（その他経常収益）	18,689	18,472
法人税等の支払額	△ 1,580	△ 2,791
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 828	16,635
投資活動によるキャッシュ・フロー		
預貯金の純増減額（△は増加）	0	0
有価証券の取得による支出	0	0
有価証券の売却・償還による収入	0	0
保険業法第113条繰延資産の償却による収入	18,946	0
保険業法第113条繰延資産の取得による支出	0	0
その他	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	18,946	0
財務活動によるキャッシュ・フロー		
借入れによる収入	0	0
借入金の返済による支出	0	0
社債の発行による収入	0	0
社債の償還による支出	0	0
株式の発行による収入	0	0
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	0	0
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	18,118	16,635
現金及び現金同等物期首残高	78,784	96,902
現金及び現金同等物期末残高	96,902	113,537

4 株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	株主資本									評価・換算差額等				新株 予約 権	純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己 株式	株主資本 合計	その 他有 価証 券評 価差 額金	繰延 ヘッ ジ損 益	土地 再評 価差 額金	評 価・ 換算 差額 等合 計			
		資本準 備金	その 他資 本剰 余金	資本剰余 金合計	利益 準備 金	その他利益 剰余金										利益剰 余金合 計
						・ 積 立金	繰越利 益剰余 金									
5年度期首残高	132,500	62,500		62,500			△ 128,019	△ 128,019		66,980					66,980	
5年度期変動額																
5年度 新株の発行																
5年度剰余金 の配当																
5年度純利益							5,035	5,035		5,035					5,035	
5年度自己株 式の処分																
5年度株主資 本以外の項目 の当期変動額 (純額)																
5年度変動額 合計							5,035	5,035		5,035					5,035	
5年度期末残高	132,500	62,500		62,500			△ 122,984	△ 122,984		72,015					72,015	
6年度期首残高	132,500	62,500		62,500			△ 122,984	△ 122,984		72,015					72,015	
6年度期変動額																
6年度 新株の発行																
6年度剰余金 の配当																
6年度純利益							23,606	23,606		23,606					23,606	
6年度自己株 式の処分																
6年度株主資 本以外の項目 の当期変動額 (純額)																
6年度変動額 合計							23,606	23,606		23,606					23,606	
6年度期末残高	132,500	62,500		62,500			△ 99,378	△ 99,378		95,621					95,621	

5 保険金等の支払能力の充実の状況

保険金等の支払能力の充実の状況を示す比率（SM比率）総括表

（単位：千円、％）

	令和5年度	令和6年度
(1) ソルベンシー・マージン総額	76,927	101,454
① 純資産の部の合計額（繰延資産等控除後の額）	72,015	95,621
② 価格変動準備金		
③ 異常危険準備金	4,912	5,832
④ 一般貸倒引当金		
⑤ その他有価証券評価差額（税効果控除前）（99%又は100%）		
⑥ 土地の含み損益（85%又は100%）		
⑦ 契約者配当準備金の一部（除、翌期配当所要額）		
⑧ 将来利益		
⑨ 税効果相当額		
⑩ 負債性資本調達手段等		
告示(第14号)第2条第3項第5号イに掲げるもの（⑩(a)）		
告示(第14号)第2条第3項第5号ロに掲げるもの（⑩(b)）		
(2) リスクの合計額 $\sqrt{[R12+R22]+R3+R4}$	8,130	8,821
保険リスク相当額	5,178	5,546
R1 一般保険リスク相当額	3,179	3,434
R4 巨大災害リスク相当額	1,998	2,112
R2 資産運用リスク相当額	4,887	5,378
価格変動等リスク相当額		
信用リスク相当額	969	1,135
子会社等リスク相当額		
再保険リスク相当額	3,123	3,509
再保険回収リスク相当額	794	733
R3 経営管理リスク相当額	301	327
(3) ソルベンシー・マージン比率 $(1)/\{(1/2)\times(2)\}$	1,892.3	2,300.1

<ソルベンシー・マージン比率とは>

・少額短期保険業者は、保険事故発生の際の保険金支払等に備えて準備金を積み立てていますが、巨大災害の発生や、少額短期保険業者が保有する資産の大幅な価格下落等、通常
の予測を超える危険が発生した場合でも、十分な支払能力を保持しておく必要があります。

・こうした「通常のパ測を超える危険」を示す「リスクの合計額」に対する「少額短期保険業者が保有している資本金・準備金等の支払余力」（すなわちソルベンシー・マージン
総額）の割合を示す指標として、保険業法等に基づき計算されたのが、「ソルベンシー・
マージン比率」です。

・「通常のパ測を超える危険」とは、次に示す各種の危険の総額をいいます。

①保険引受上の危険（一般保険リスク）：保険事故の発生率等が通常のパ測を超えること
により発生し得る危険（巨大災害に係る危険を除く）

②資産運用上の危険（資産運用リスク）：保有する有価証券等の資産の価格が通常のパ測
を超えて変動することにより発生し得る危険等

③経営管理上の危険（経営管理リスク）：業務の運営上通常のパ測を超えて発生し得る危
険で上記①～②および④以外のもの

④巨大災害に係る危険（巨大災害リスク）：通常のパ測を超える巨大災害（関東大震災や
伊勢湾台風相当）により発生し得る危険

・「少額短期保険業者が保有している資本金・準備金等の支払余力」（ソルベンシー・マージン総額）とは、少額短期保険業者の純資産、諸準備金（価格変動準備金・異常危険準備金等）、土地の含み益の一部等の総額です。

・ソルベンシー・マージン比率は、行政当局が少額短期保険業者を監督する際に活用する客観的な判断指標の1つですが、その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされています。

6 時価情報等

① 有価証券

該当ありません。

② 金銭の信託

該当ありません。



日本ワイド少額短期保険株式会社
Japan wide small amount and short term insurance co;Ltd.,